

## 第3回 Astra!実行委員会 ディスカッション記録用紙

ルーム5

記録者： 藤森

### 参加者名

大日方委員(信濃教育会)、金井委員・二見委員(国際ロータリー第 2600 地区)  
徳永教育幹(学びの改革支援課高校教育指導係長)

### ディスカッション1

【テーマ:Astra!メンバー(児童生徒の参加者)の選抜基準・選抜方法について】

- ・事務局から提示された選抜基準・選抜方法(書類選考およびオンラインによる選抜)について、おおむね妥当であるとの認識を共有。
- ・書類は 400 字程度とし、児童生徒にとって大きな負担にならない点が評価された一方で、日程のタイトさや、小学校高学年が将来像や地域への思いをどの程度言語化できるかについては懸念と期待の両面が示された。
- ・また、今後の社会や人口動態を見据え、「ふるさと(長野県)」と「世界・グローバルな視点」をどのように結びつけて問うかが、選抜の視点として重要であるという意見が多く出された。

### 【主な意見・アイデア】

- ・選抜方法(書類選考・オンライン選抜)については、特段の問題はなく、この方法で進めてよい。
- ・志望理由を 400 字程度で記載する形式は、過度な負担にならず、参加のハードルも低いという評価。一方で、日程がややタイトである。可能であれば余裕をもたせた方がよい。ただし、関係者の協力があれば実施は可能ではないかという前向きな意見もあった。
- ・ふるさとへの思いを一律に問うことの難しさや地域差についての指摘があり、問いの立て方には工夫が必要。そのため、「海外に行ってみたい」「世界と関わりたい」といった、子ども自身が実感を持って語れるグローバルな視点を、一次選考の段階から取り入れてはどうか。
- ・二次選考でオンライン面接を行うことを踏まえ、一次選考ではグローバルな関心や視点をより明確に問うことも検討の余地がある。

### 【印象的だった意見・キーワード】

- ・書類選考+オンライン選抜で問題ない
- ・400 字なら取り組みやすい
- ・日程はタイトだが、協力があれば進められる
- ・世界的な視点から長野を見る
- ・ふるさとと世界を結び付ける視点
- ・地域差を踏まえた問いの工夫
- ・グローバルな視点を一次選考に入れてもよい